

令和6年1月

関西広域連合議会第31回

産業環境常任委員会会議録

令和6年1月関西広域連合議会第31回産業環境常任委員会会議録 目次

令和6年1月22日

1	開催日時・場所	1
2	議 題	1
3	出席委員	1
4	欠席委員	1
5	事務局出席職員職氏名	1
6	説明のため出席した者の職氏名	2
7	会 議 概 要	4

1 開催日時・場所

開会日時 令和6年1月22日(月)

開催場所 中之島センタービル 2階 NCB会館 淀の間

開会時間 午後1時30分

閉会時間 午後3時22分

2 議 題

(1) 広域観光・文化・スポーツ振興

調査事件

・広域観光・文化・スポーツ振興の推進について

(2) 広域環境保全

調査事件

・広域環境保全の推進について

3 出席委員 (19名)

2番 桑 野 仁	21番 吉 岡 たけし
4番 九 里 学	24番 北 浜 みどり
6番 小 原 舞	25番 北 川 泰 寿
7番 小鍛治 義 広	26番 壬 生 潤
9番 菅 谷 浩 平	28番 松 木 秀一郎
13番 中 野 稔 子	29番 芦 高 清 友
15番 八重樫 善 幸	31番 川 畑 哲 哉
16番 黒 田 まりこ	35番 内 田 博 長
18番 田 辺 信 広	39番 岡 本 富 治
20番 三 宅 達 也	

4 欠席委員 (1名)

33番 富 安 民 浩

5 事務局出席職員職氏名

議会事務局長	新 居 徹 也
議会事務局次長兼議事調査課長	山 口 隆 壮
議会事務局総務課長	松 浦 幸 浩

6 説明のため出席した者の職氏名

(1) 広域観光・文化・スポーツ振興

副広域連合長（広域観光・文化・スポーツ振興担当）	西脇隆俊
広域連合副委員（広域観光・文化・スポーツ振興副担当）	坂越健一
本部事務局長	土井典
広域観光・文化・スポーツ振興局長	野口礼子
広域観光・文化・スポーツ振興局次長（文化担当）兼文化課長兼スポーツ部参与	勝山享
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長兼参与（文化担当）	小倉陽子
広域観光・文化・スポーツ振興局観光課長付参事	嘉住哲弥
広域観光・文化・スポーツ振興局観光課長付参事（奈良県）	村田政子
広域観光・文化・スポーツ振興局観光課長付参事（鳥取県）	古川義秀
広域観光・文化・スポーツ振興局文化課長付参事	里友宏
広域観光・文化・スポーツ振興局文化課長付参事（奈良県）	中村美也子
広域観光・文化・スポーツ振興局参事（奈良県）	谷垣裕子
広域観光・文化・スポーツ振興局参事（京都市）	吉田正樹
広域観光・文化・スポーツ振興局広域スポーツ振興課長付参事	織邊剛
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（滋賀県）	上田重和
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（大阪府）	市政誠
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（和歌山県）	小路哲生
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（徳島県）	以西芳隆
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（大阪市）	井谷宣明
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（堺市）	野村泰生
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（神戸市）	出石直史
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（文化担当）兼スポーツ部参与（滋賀県）	藤原久美子
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（文化担当）兼スポーツ部参与（大阪府）	荒木浩蔵
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（文化担当）（奈良県）	川上孝範
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（文化担当）兼スポーツ部参与（徳島県）	加藤幸一
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（文化担当）（京都市）	平賀徹也
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（文化担当）（大阪市）	松岡博
広域観光・文化・スポーツ振興局参与（文化担当）（堺市）	上西浩
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（奈良県）	木村茂和
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（京都市）	平松謙一
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（堺市）	松本ゆり
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（神戸市）	丹沢靖

(2) 広域環境保全

広域連合長	三日月	大 造
本部事務局長	土 井	典
広域環境保全局長	白 井	稔
広域環境保全局環境政策課長	吉 田	亮
広域環境保全局CO ₂ ネットゼロ推進課長	松 田	和 浩
広域環境保全局自然環境保全課長	辻 田	香 織
広域環境保全局自然環境保全課長付参事	清 水	暢 子
広域環境保全局循環社会推進課長	市 田	重 宏
広域環境保全局参与（京都府）	松 山	豊 樹
広域環境保全局参与（大阪府）	岡 野	春 樹
広域環境保全局参与（兵庫県）	福 山	雅 章
広域環境保全局参与（和歌山県）	中 場	毅
広域環境保全局参与（徳島県）	森	琢 真
広域環境保全局参与（京都市）	樹 下	康 治
広域環境保全局参与（大阪市）	岡 本	充 史
広域環境保全局参与（堺市）	辻 尾	匡 彦
広域環境保全局参与（神戸市）	藤 井	重 樹

7 会議概要

午後 1 時30分開会

○委員長（小鍛治義広） これより、関西広域連合議会産業環境常任委員会を開催いたします。

本日、富安委員は欠席でございます。

なお、理事者側の出席者につきましては、お手元に名簿を配付しておりますので、ご覧をお願いします。

それでは、議事に入ります。

本日の調査事件は、「広域観光・文化・スポーツ振興の推進」並びに「広域環境保全の推進」についての2件であります。

本日は2部制とし、まず、「広域観光・文化・スポーツ振興の推進について」を議題とし、広域観光・文化・スポーツ振興局から説明聴取の後、質疑を行います。次に、理事者を入れ替え、「広域環境保全の推進について」を議題とし、広域環境保全局から説明、聴取の後、質疑を行います。時間はそれぞれ1時間程度ずつで、全体として2時間程度を見込んでいます。終了予定時間は15時30分を目途としたいと思います。

また、本日は調査事件が2件あることから、質疑時間をしっかり確保できるよう運営してまいりたいと思いますので、委員の皆様には円滑な議事進行にご協力いただきたいと思いますので、何とぞよろしくお願いをいたします。

それでは、「広域観光・文化・スポーツ振興の推進について」を議題といたします。

まず初めに、本日出席の連合委員からご挨拶をいただきたいと思います。

最初に、西脇副広域連合長にご挨拶をいただきます。

西脇副広域連合長。

○副広域連合長（広域観光・文化・スポーツ振興担当）（西脇隆俊） 関西広域連合議会産業環境常任委員会の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

まず初めに、このたびの令和6年能登半島地震におきまして甚大な被害が発生し、多くの方がお亡くなりになられ、さらには被災地に支援物資を輸送しようとしていた海上保安機と日航機の事故により5名の命が奪われました。謹んで哀悼の意を表します。また、現地の状況は、断水、停電、そして道路の寸断や避難所におけます感染症の流行懸念ということで非常に厳しい状況でございます。そうした中で、避難生活を余儀なくされておられる方々を含め、被災された全ての皆様に関心からお見舞い申し上げます。関西広域連合としても、被災者の方が一日も早く日常を取り戻せるように全力で支援してまいりたいと思っております。

それでは改めまして、委員の皆様には、平素から関西広域連合の広域観光・文化・スポーツ振興に格別のご指導、ご尽力を賜っていることに、改めまして厚くお礼を申し上げます。

本日の委員会では、広域観光・文化・スポーツ振興にご審議をいただくことになっておりまして、担当委員の私と、副担当の坂越副委員が出席をさせていただいております。事業の詳細につきましては、後ほど事務局から説明をいたしますけれども、先日JNTOが発表

いたしました12月の訪日外客数が、コロナ前2019年の同月比で108.2%の2,734,000人となりました。12月としては過去最高でございますし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大後では単月でも過去最高ということになり、急激に回復しているところでございます。この効果が関西一円に広げられるように、引き続き広域周囲の取組を進めてまいりたいと思っております。

また文化につきましては、2025年の大阪・関西万博を関西の多様な文化の魅力を発信する絶好の機会と考えております。万博開催の前年度に当たります来年度につきましては、アート、伝統芸能、ノンバーバル演劇といった多彩な関西の文化を多くの方に鑑賞し、また体験していただける文化発信イベントを開催いたしまして、機運醸成を図るとともに、関西全域の活性化につながるよう取り組んでまいりたいと思っております。

そしてスポーツにつきましては、大阪・関西万博とか、あとワールドマスタースゲームズの2025年台北市&新北市大会と連携しました海外の誘客活動というのに努力をいたしますとともに、関西広域連合としても、こうした取組を支援し、一層の機運醸成と参加促進の取組を進めたいと考えております。

いずれにしましても、大阪・関西万博を目前にひかえまして、国内外から関西に注目が集まっているときでございますので、引き続き地域文化の魅力発信、関西文化の保全・継承、またこれらの文化の魅力を生かしました広域観光・文化・スポーツ参加機会の拡大ということに積極的に取り組んでまいりたいと思っております。

委員の皆様におかれましては、引き続きご指導のほど、よろしく願いいたします。

○委員長（小鍛治義広） ありがとうございます。

次に、坂越副委員をお願いいたします。

坂越副委員。

○広域連合副委員（広域観光・文化・スポーツ振興副担当）（坂越健一） 副委員をやっております、京都市の副市長の坂越と申します。よろしく願いいたします。

先生方におかれましては、日頃より広域観光・文化・スポーツの振興にご尽力賜りましてありがとうございます。

まず冒頭に、能登半島地震で多くの方々が犠牲になられましたこと、心からお悔やみ申し上げます。

私も実家は富山なんですけれども被災いたしました。多くの被災された方々に、衷心よりお見舞い申し上げますというふうに思います。

政令市の中で一番被災地に近い京都市としましても、元日から大規模な消防大隊とヘリコプターを被災地に派遣いたしまして、救助・救出に全力で当たっているところであります。今延べ800人近くが、専門技術職員がかなり政令市ですので多いですので、現地に派遣して多方面にわたって尽力しているところでございます。一日でも早く元の生活が取り戻せるよう、これからも各政令市や関西広域連合の自治体の皆さんと協力して取り組んでまいりたいというふうに思っております。

広域観光につきましては、西脇知事からもお話ありましたけれど、観光がコロナ収束の中で本格回復してくる中におきまして、一方で、コロナ前に発生しておりましたオーバーツーリズムの問題も発生してきているところであります。京都は、観光混雑対策に全国に

先駆けて先進的に取り組んできたノウハウがありますので、先駆けて国のほうに緊急要望を去年の秋にいたしまして、それをかなり取り込んでもらった対策を国のほうで取りまとめられました。観光混雑対策については一番重要になりますのが、場所の分散と時期と時間の分散ということになっていくと思いますが、そういう意味で関西広域連合が取り組んでおります広域観光ということがオーバーツーリズム対策にも大きく寄与するというふうに思っておりますので、関西の各自治体と一緒にやって取り組んでまいりたいというふうに思っております。

また文化につきましては、文化庁が昨年、明治維新以後初めての本格的な省庁移転で京都にまいりました。文化首都・関西、文化首都・京都の実現に向けて、名実ともにそれが実現されるように取り組んでまいりたいというふうに思っているところであります。その名実ともに文化首都というのを達成するためには、やはり文化の中心地としてのリーダー役の役割をしっかりと果たすということが重要なのかなというふうに思っておりまして、利他の精神で、関西だけではなくて日本全体の文化による地方創生の実現とか、世界への文化の発信力の強化とか、日本全体の文化の底上げになることを、リーダー役の関西なり京都がそういう役割を果たしていくということが重要なのかなというふうに思っております。

文化庁さんとも、よく懇親とか意見交換の場がありますが、先般お聞きしたところでは、被災地の石川のほうでは、かなり伝統工芸がありますので、文化財や伝統工芸がかなり被災して、これからがすごく大変だというふうに伺っております。文化財とか伝統工芸といえますのは、災害からの復旧もすごく課題になりますし、これからは担い手不足や材料不足の中で維持・継承ということが大きな課題になっていくと思っておりますが、京都におきましても、国立文化財修理センターというのでもできますし、奈良におきましても文化財防災センターというものがございまして、各地関西の各自治体と協力して、こういう面でもいろいろ文化の面で貢献していけるように取り組んでまいりたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、観光・文化ともに関西の最大の強みであると思っておりますので、関西の発展のための基盤として、観光と文化をさらに磨きをかけて、皆さんで取り組んでまいりたいというふうに思っておりますので、今後とも先生方、ご指導をよろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

○委員長（小鍛治義広） ありがとうございます。

それでは、広域観光・文化・スポーツ振興局から、広域観光・文化振興の取組状況について、ご説明を願います。

野口局長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局長（野口礼子） 広域観光・文化・スポーツ振興局長の野口でございます。

私のほうからは、広域観光・文化振興分野の取組について、ご説明いたします。

お手元、資料1「広域観光・文化振興の取組について」の資料をご覧ください。

まず1ページになります。「関西観光・文化振興計画」に沿った施策の展開を、観光・文化のほうで取り組んでおります。文化庁が関西に移転してきたことや、大阪・関西万博の開催をひかえている中で、新時代の文化・観光首都の創造を目指して、文化をはじめと

する多様な関西の魅力を生かした持続性の高い観光の推進や、関西文化に親しむ機会の創出などの取組を進めております。

2 ページのほうをご覧ください。令和5年度の取組についてご説明をいたします。

まず、予算ですけれども、関西ブランドの向上、基盤整備の推進、ジオパークの魅力発信・周遊促進、関西文化の魅力発信の事業について、この4つの分野で1億5,018万7,000円の予算で取り組んでいるところでございます。

それぞれの取組状況についてですが、主な事業に絞ってご説明をいたします。

1. 関西ブランドの向上の(2)テーマ別観光推進事業についてです。関西の新たな魅力の創出に向け、関西に点在する文化財・食・自然などの観光資源をテーマ・ストーリーでつなぐテーマ別観光を展開しております。今年度につきましては、令和4年度から取り組んでおります「城」、このテーマにつきましては、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社とも連携いたしまして、今アニメーション映画「ウィッシュ」というのが上映されておりますけれども、こちらと連携いたしまして、「城」を周遊ポイントするデジタルスタンプラリーを11月から実施しております。このような取組を通して、関西地域内の「城」への周遊促進をしているほか、今年度は新たに「水」をテーマとした取組を進めてまいります。

(3)海外プロモーションの実施についてです。今年度は2025年に開催されます大阪・関西万博への来場を促し、来場者には関西各地に周遊いただくとともに、万博開催に絡めた企業のインセンティブ旅行ですとか視察旅行・教育旅行というものを世界各地から来ていただきたいということで、西脇副広域連合長を団長といたしまして11月にタイを訪問しました。そのときに政府関係者・教育関係団体・旅行関係団体等に対して様々な形でプロモーションを実施したところです。また、来週1月29日・30日には、三日月広域連合長を団長といたしまして、韓国へのトッププロモーションを予定しているところです。

続きまして、3 ページのほうをご覧ください。

(4)関西観光本部事業についてです。これは、関西広域連合をはじめ官民が一体となり設立した広域連携の観光DMOでございます。この一般財団法人関西観光本部が関西を広域的にプロモーションする事業を展開しております。その費用の一部を負担しております。4月末にコロナの水際対策のほうが終了したことがございましたので、訪日観光客の回復を図るために海外へのデジタルプロモーションによる情報発信の強化ですとか、関西域内の周遊促進・環境整備などに取り組んでおります。

次、2番、基盤整備の推進についてです。関西広域連合では、全国通訳案内士の登録業務を実施しておりますが、そのほかに研修ですとか人材育成、それから関西域内の周遊を促進するために観光情報の発信等、環境整備を進めております。今年度からは内閣府のデジタル田園都市国家推進交付金を活用いたしまして、関西の観光案内所のネットワーク強化に取り組んでおります。

3番、ジオパークの魅力発信・周遊促進についてです。関西広域観光の幅を広げ、外国人観光客の関西各地への周遊を促進するため、関西の優れた地質景観にスポットを当て海外に情報発信をしております。今年度は国内外への情報発信に加えまして、旅行会社・通訳案内士を対象とした、山陰海岸ジオパークエリアでのファムトリップを実施したほか、

外国人観光客のジオパークでの周遊を見据えて、ジオパークに通じた人材の育成等を実施いたします。

4 ページのほうをお願いいたします。

4 番、文化振興の取組の（1）関西文化の振興と国内外への魅力発信及び、（2）連携交流による関西文化の一層の向上についてです。関西の文化施設を無料開放する「関西文化の日」を昨年11月に実施したほか、文化庁との連携による「歴史文化遺産フォーラム」などの事業を継続し、関西文化や世界文化遺産に関する情報発信に引き続き取り組んでまいります。

（3）関西文化の次世代継承についてです。時代を担う子どもたちを対象に、生け花などのオンライン教室に加え、令和5年度は能・狂言などのリアル教室を開催するなど、子どもたちに文化体験の機会を提供してまいりました。

（4）産学官連携による関西文化の創造についてです。経済界や文化団体等と連携したプラットフォーム活動を基盤として、企業と芸術家の交流を通じた新たな文化創造などの取組を進めてまいります。

（5）文化庁移転等を契機とした関西文化の振興についてです。関西文化の情報を一元的に扱うポータルサイトのコンテンツなどの拡充や、文化施設を巡るデジタルパスポートのシステム構築、伝統芸能等の実演や山・鉾・だんじり等の展示・巡行を実施するとともに、大阪・関西万博に向けた文化発信イベントの実施計画を策定し、関西文化の魅力を国内外に発信するなど、関西への誘客を図ってまいります。

広域観光・文化振興分野の取組については以上となります。よろしくをお願いいたします。
○委員長（小鍛冶義広）　　続きまして、広域スポーツ振興の取組状況について、お願いをいたします。

小倉部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長兼参与（小倉陽子）　　スポーツ部長の小倉でございます。

私からは、広域スポーツ振興の取組について、ご説明させていただきます。

資料2-1の1ページをお願いいたします。

スポーツ部では、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承や、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザインに沿った健康的・活動的な地域社会づくり」、そしてワールドマスターズゲームズ関西の開催に向けた取組を推進するため、令和4年3月に「第2期関西広域スポーツ振興ビジョン」を策定いたしました。

ビジョンの概要ですが、ビジョンでは、スポーツをめぐる現状と課題を整理した上で、関西が目指す将来像を3点掲げています。1点目は、生涯スポーツの拠点「生涯スポーツ先進地域関西」、2点目は、競技スポーツ大会の拠点「スポーツの聖地関西」、3点目は、スポーツツーリズムの拠点「スポーツツーリズム先進地域関西」でございます。

まず戦略Ⅰとしまして、「生涯スポーツ先進地域関西」の実現に向け、①子供や子育て層のスポーツ参画機会の拡充のほか、3つの項目に取り組んでいます。

次に、戦略Ⅱ「スポーツの聖地関西」の実現に向け、聖地と称される競技場や発祥地を数多く持つ関西の強みを生かし、⑤国際競技大会・全国大会の招致・支援などに取り組ん

でいます。

最後に、戦略Ⅲ「スポーツツーリズム先進地域関西」の実現に向け、地域観光資源とスポーツを結びつけ交流人口を増やし地域活性化を推進するため、⑧広域観光・文化振興との連携などに取り組んでいます。

2 ページをお願いいたします。

令和5年度当初予算は1,861万1,000円を計上しています。

取組状況ですが、関西広域スポーツ振興ビジョン推進会議を開催し、具体的事業を企画立案するほか、ビジョン策定のアドバイザーからご意見をいただき取組に反映しています。

3 ページをご覧ください。

生涯スポーツ先進地域関西の実現に向け、(1)子供や子育て層のスポーツ参加機会の拡充では、スポーツ離れなどの課題に対応するため、府県市を超えたスポーツ交流大会を開催しました。大阪の門真市で関西小学生スポーツ交流大会卓球大会を実施しました。24チームの参加があり、このうち県外からも16チームの参加がありました。

次に、(2)成人のスポーツの振興では、生涯スポーツの機運を高め、スポーツの参画人口拡大につながる機会を創出しています。①デジタルを活用した日々の運動習慣の促進では、スマートフォンアプリを活用した、関西元気ウォーキングイベントを92日間実施いたしました。②関西マスターズゲームズの開催では、健常者も障害者も参加可能なインクルーシブな大会として開催しています。

4 ページをお願いいたします。

開催状況は表に記載のとおりで、9府県市で14競技を実施いたします。(3)障害者スポーツの振興としまして、全ての人々のライフステージに応じたスポーツ活動の支援に取り組んでいます。①障害者スポーツ体験会の開催では、障害者スポーツ人口の拡大や理解促進を図るため、体験会を開催いたしました。

5 ページをお願いいたします。

(4)地域のスポーツの振興に向けた広域的連携による支援です。①企業等表彰制度の実施は、関西経済連合会などと連携し、スポーツの振興に積極的な企業や、スポーツを通じて健康経営に取り組む企業などを表彰する制度で、企業がスポーツに取り組む機運の醸成を図ります。今年度から審判員表彰も併せて実施します。1月25日に表彰式にて発表されます。

次に、「スポーツの聖地関西」の実現では、本年5月に神戸で世界パラ陸上競技選手権大会が開催されますので、体験会などを通じて競技人口の拡大や理解促進を図ってまいります。

6 ページをお願いします。

(2)スポーツ人材の育成です。①障害者スポーツアスリート育成練習会の開催では、競技人口が少ない競技種目など、府県市単位では強化・育成が難しいアスリート向けの練習会や、著名な指導者を招聘した講習会などを開催しています。今年度は京都府でパワーリフティングを実施いたしました。また、②スポーツ指導者講習会におきましては、あらゆる競技の指導に応用できるコーチング技術などに関する講習会を実施することとし、2月に奈良県で開催いたします。

最後に、「スポーツツーリズム先進地域関西」の実現では、(1) 広域観光・文化振興と連携いたしまして、観光資源や文化資源とスポーツイベントなどを融合した広域的スポーツツーリズムなどに取り組んでいます。①観光・文化資源を融合させたスポーツの推進として、関西広域連合で設定いたしました関西広域サイクリングルートとスマートフォンアプリを活用しまして、昨年(2022)の11月3日から12月31日まで、サイクリングイベントを実施しました。

7ページをお願いします。

関西広域サイクリングイベントですが、東大寺から仁徳天皇陵古墳を巡るルートである世界古墳ルートを設定しました。古墳という日本独自の歴史文化をテーマ設定とすることで、外国人観光客にも刺さりやすいコンテンツとしました。また、より多くの方へ発信してもらうため、SNSを活用したフォトコンテストの実施も行いました。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長(小鍛治義広) それでは、質疑に移ります。ご発言があれば挙手願います。

小原委員。

○小原委員 京都府議会、小原でございます。よろしくお願いいたします。

ご説明ありがとうございます。私からは、広域観光についてお伺いしたいと思っております。2点お伺いいたします。

先ほど、オーバーツーリズムのお話もございました。京都府議会で先日、出前高校生議会というのをいたしまして、嵐山在住の学生さんからも、本当にもう外国人が大変多くなってきて外国語が飛び交っていると。そして一方で、たくさん来られて、そのマナーの問題で、例えば、民家の敷地にも入ってくるというお話を伺ったり、さらには京都市内だけではなくて、私は北部の舞鶴ですけど、伊根町のほうにも民家に入ってくるというようなお話も伺っているところでございます。

先ほどもおっしゃられましたように、やはり場所の分散という形や、またこういったマナーについても情報発信が大変重要だと思いますけれども、やはりたくさん集中して来られるというのは、今で言うSNSとか、また口コミとか、そういったところで集中していると思いますけれども、各府県市において様々なオーバーツーリズムや、またインバウンド対策をされていると思いますけれども、この広域的なこの情報発信として、WEBによる情報発信、SNSでも併せて情報発信もされておりますけれども、今のお取組について、お伺いしたいと思います。

○委員長(小鍛治義広) 西脇副広域連合長。

○副広域連合長(広域観光・文化・スポーツ振興担当)(西脇隆俊) もし、後で補足があれば、坂越副委員から簡潔にお願いしたいと思います。

まず私から申し上げますと、オーバーツーリズムといっても、京都市内であって嵐山と祇園と伏見稻荷ぐらいに、要はSNSがあるから市域全部にオーバーツーリズムになっているわけではなくて特定になりますし、府域では多分伊根町が、面積が狭いということもありますけれども、なっているということなので、基本的には先ほど副委員からも言いましたけど、場所と時間の分散をさせるという。これを、来るなという話とはまたちょっと違うような気がします。その本当に問題は、1つはそのマナーの問題、これは実はオーバー

ツーリズムじゃなくても、もともとマナーの問題というのがあります。多くに関わらず。もう1つはやっぱり公共交通機関が、特に嵐山の場合は高校生が通学に乗れないと。私も聞いた話では、通学定期のお金を返してくれと言っている高校生もいまして、結局自転車で通学していると。今回の3月のダイヤ改正で、JRが嵯峨野線だけは6便全部戻すと言っていますので、だいぶ解消にはなると思いますが、その分散をしていくという意味においては、京都市の中での分散ですが、関西広域連合の仕事は、これはもう皆さんおっしゃっていて、逆に関西広域連合の中では京都とか大阪に集中する観光客をできる限り分散したい。

魅力がないわけじゃなくて、やっぱり魅力もあるし、最近リピーターの外国人の方というのは、我々が逆に、日本人があまり注目しないようなスポットにも行っておられるということもあるので、まさに小原委員おっしゃるように、情報発信で魅力発信する。それは我々だけではなくて、来られた観光客の方からも発信していくということで分散をしていく。だからこそ、関西の広域の周遊ルートをつくって、できる限り魅力ある関西に広く周遊をしてもらうという取組が重要ですが、それは知ってもらわないといけないので、一般的な魅力発信もありますが、これはやっぱりツーリズムというか、要するに旅行会社が非常に重要なので、だからこそそのプロモーションでもありますが、そういうことをどんどん発信をしていくということが重要なのかなと思っています。

坂越さん、何かあればどうぞ。

○広域連合副委員（広域観光・文化・スポーツ振興副担当）（坂越健一） 1点だけ補足。

デジタルが1つ、すごくブレイクスルーになるかなというふうに思っまして、京都市は観光快適度マップというのをスマホで見れるようになっていて、どこが混雑してるかを、それで分散化を図っているわけですけど、そういうふうにデジタルの技術で、ライブでどこが混雑してるかどうか、車の渋滞状態とか全部出せるようになっていきますので、これは関西広域連合でWEBとかによる情報発信の中で取り組んでいけば、より分散化を図れるのかなというふうに思っておりますので取り組んでまいりたいと思います。

○委員長（小鍛治義広） 小原委員。

○小原委員 ありがとうございます。

まさに情報発信の中では、外国人の中でのSNSの口コミも含めて、インフルエンサーの活用であったり、各府県市の中ではされていることを、やっぱり関西広域連合ならではの大きな範囲での分散というものを、より一層進めていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

もう1つは、関西広域観光周遊ルートの中で、以前「美の伝説」ルート、数字の8の文字の取り組んでいただいて、これは国に認定された取組ということで、こういった、いわゆる分散化につながるようなルート選定をさせていただいておりますけれども、今、発展の形で「8つのルート」というふうに展開をさせていただいていると思いますけれども、この「美の伝説」のルートから、今はどのように展開をさせていただいているかについて、お伺いしたいと思います。

○委員長（小鍛治義広） 野口局長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局長（野口礼子） 8つの今の取組、もともと「美の伝説」というのは、6年前か7年前に観光庁のほうで、日本全体で大きな広域周遊ルートをつくりましょうという取組がありました。関西については、それで「美の伝説」という2つのルートをつくりました。それを関西を大きく8の字になる形になっていたんですけども、これはどちらかという1週間以上かかるような、全部行こうとしますと1週間以上かかるような、そういうルートでした。そういう方もいらっしゃるかもしれませんが、大体この関西での滞在日数というのが、もう少し現実的などころで合わせたようなルートづくりをしたほうがいいよねというところで、8つの今ルートをつくっております。

例えば、京都を例に出すとあれですけども、丹波エリア、どうしてもこれ丹波は兵庫県と京都府にまたがってますので、丹波全体を横に行くようなルート、それから日本海側のほうでしたら山陰海岸エリアということで、京都府・兵庫県・鳥取県まで行くようなルート、そういうふうな形で、今関西全体で8つのルートをつくっております。それぞれのルートにテーマですとか、ストーリーなどをつけて旅行商品、これが具体的に旅行商品にならないとなかなか実際には巡っていただけませんので、関西観光本部のほうが行業者さんとかにお願いをいたしまして、この8つのルートそれぞれについて、今具体的に商品として販売できるような、そういったものが今掲載をされているところです。なかなかちょっとコロナ禍もありましたので、具体的にじゃあここでたくさんの方がというところまではまだまだ至ってないですけども、これからどんどん訪日外国人もたくさんいらっしゃると思いますので、こういった魅力もしっかりお伝えしながら、関西全体に周遊していただけるような取組を進めてまいりたいと思っております。

○委員長（小鍛治義広） 小原委員。

○小原委員 ご説明ありがとうございます。

「美の伝説」ルートが1週間以上かかるという設定ということで、現実的な方向に、より発展的に進めていただいているということでありありがとうございます。

ただ、「美の伝説」のこの周遊ルートというときのこのコンセプトは、5つの世界遺産と、そして7つの絶景とか、そしてやっぱり日本の美というものをコンセプトとしていたと思いますけども、今回、発展的な形で現実的に8つのルートに設定して進めていただいておりますけれども、このコンセプト自体も、しっかりと引き継いでいただいているようなイメージでよろしかったでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 野口局長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局長（野口礼子） もちろん、それぞれの8つのルートの中には、世界遺産などもきっちり入り込んだ形になっております。

○委員長（小鍛治義広） 小原委員。

○小原委員 ありがとうございます。

外国人の方に日本に来ていただいて、この日本の美といいますか、日本らしさというものを知っていただいて、より発信できるようにと、引き続きのお取組のほど、よろしくお願いたします。

ありがとうございました。以上です。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

田辺委員。

○田辺委員 大阪市会、田辺でございます。今日もよろしくお願ひします。

従前からお伝えしていますように、様々な事業をされていますけれども、効果がどのようなものなのかというのは、我々のほうにはなかなかちょっと見えないんですね。本日いただいたご説明でも、これまでこのような取組してきました。これからこういう取組します。そして、また3月の本会議では予算が上程されて我々のほうで審議する形になるわけでございますけれども、構成府県市の負担、要は有権者の負担を経て関西広域連合としてされている事業が、果たしてそれは本当に意義のある効果のあることなのかどうかというのは本当になかなか見えなくて、特にその観光の部分は正直見えません。

先ほどスポーツのほうでは、例えば競技人口の少ないようなものであるとか、障害者向けであって単独の自治体、構成府県市ではなかなか難しいようなものを関西広域連合として取り組んでいますというようなご説明、それは非常に意義のあることだと私も思います。ただ一方で、その観光の分野においては先ほどご説明あったように、旅行会社であったり民間の事業者さんはかなり事業を進めておられる中で、関西広域連合が自治体として果たしてどういう役割をして、どういう効果があったのかというところを、細かい事業がたくさんありますので1つ1つとは言いませんけれども、例えば具体例を2、3挙げて、こういったところに連携の効果がある、関西広域連合の効果があるんだよというようなご説明をいただけないでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 西脇副広域連合長。

○副広域連合長（広域観光・文化・スポーツ振興担当）（西脇隆俊） もし事務的に補足があれば後で野口がしますけれども、これは一昨年の10月、鳥取でもそういったお話をさせていただいて、確かに広域連合の制度ができるとき、私は国土交通省にいたんですけども、観光は1つの焦点だったというのは、もともとは、あのときも言いましたけれども、府県の観光協会は皆さんライバルで、それぞれのところがやっぱりよくなればいいと。ただ、外国人観光客が増えてきたら、外国人の人は別に行政界もそんなに関心がないのと、それぞれ違うテーマ性で行かれるので、できる限り広域にやったほうがいい。これは皆さん、総論としては賛成だと思いますし、そういう分野からすると。ただ一方では、京都だって外国人観光客じゃなくて国内の観光客も来られるしということもあったので、例えばその訪日外客数が非常に伸びてるとか、宿泊数が伸びてるとか、あと今は円安のこともありますけど、旅行観光商品も非常に増えています。ただそれが、申し訳ないです。関西広域連合の寄与によるものか、それじゃないものかと。観光自体がそもそも行政がどれだけ関与すべき分野かということも実はありますけれども、そういう意味では数字としてなかなか観光消費とかでは表しにくいというところがあり、ただ一方で、プロモーションなんかで海外に出かけていくと、国際便の直行便がそれを契機にできたとか、今回タイに行きましたけど、タイの観光旅行会社の代理店とか観光庁とは覚書を結びたいというようなこともおっしゃってまして、それがあると、それによって多分タイの旅行会社の方は、それに基づいてということ。ただこれもじゃあ、我々だけの成果かといえ、そうでもないのですが、そういう確かに説明に、もうちょっと努力をすべきだというのは私も痛感をし

ておりますが、実際、広域観光については、府県ごとでやるよりも一緒にやったほうがいいということについてはかなりの理解は得られていることは間違いのないと思いますが、ただそれをおっしゃるように、具体の有権者というか納税者の方に納得できる形で効果を、単なる数量だけじゃなくてもいいと思いますけども、事柄としても効果を表すようなことは努力をしなきゃいけないというふうに思っています。

私も国土交通省にいるときには、そんなのきれいのかと思いましたが、いざ、特に知事という立場になってからを見ますと、やはりそれぞれの単独の府県ではできないことというのが当然ありまして、さっき丹波の例も出てましたけど、でも京都と奈良と言っても、中国の西安からとってみたら両方行きたいというときに、真ん中あたりの南山城のところにも国宝が結構あったりすると、今までそこは何もなかったのですが、そういう仏像とかお寺さんのルートをつくることによって1つのルートができてくるとか、そういう効果はかなりあると思っておりますので、田辺委員、いつもいつも同じことで答えて申し訳ないですけれども、私自身としては、ようやくコロナも明けましたので、さらに努力を重ねていきたいなと思っております。

○委員長（小鍛治義広） 田辺委員。

○田辺委員 すいません。副広域連合長ありがとうございます。ご答弁。

もう着座したままでいきますけど、観光については、もうご存じのとおり、大阪府市も従前から一体となって相当取り組んできておるところで、先ほど小原委員からございましたように、オーバーツーリズム、そういったところでいきますと、やっぱりこの関西全体で取組ということになると、やっぱり周遊であるということだし、その連携であると思えますけど、ちょっと私、そんなに旅行とか観光に行っていないですけど、1つ思うのは、例えば、ある観光地であったり、ついこの間はここで全員協議会、総務常任委員会あったときに、ちょうど昼間に中之島美術館に行ってきましたけれども、例えばそういったスポットの場所に行くと、他の関西の観光であったりとか美術館だったりとか、そういうPRはあんまり感じないので、その辺はどうですか。結構されてるんですか。

○委員長（小鍛治義広） 野口局長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局長（野口礼子） どちらかといいますと、その広域周遊とかルートというのは、こっちにいらっしゃる前に、ある程度、特に外国人の方になれば、いきなり来て、じゃあどこに行こうかなと探すよりも、じゃあここここここに行くから、ここに宿泊しようと。どちらかというとな計画的な形の旅行をされると思います。そのときに事前に旅前のときにきっちりルートを見せるとか、もしかしたらさっき、お城というお話をしましたけれども、お城好きの人だったら、じゃあ世界遺産の姫路城に行くけれども、せっかくこの姫路城に行くんだったら周辺に何かあるのかな。例えば、その似たようなお城はないのかなというようにところで巡っていかれたりとか、例えば、もう1つ滋賀県に彦根城というのがありますけれども、これ彦根城と姫路城は新快速で行けば日帰りでも両方行けちゃうというようなところもありますので、そういったようなことをしっかり旅前も含めて情報発信をしているところです。

先ほどデジタルというお話もありましたけれども、SNS発信ですとか多言語での展開というのをしっかりやっております。やっぱりどうしても、私もこっこの広域連合のほうを

やっていますけれども、京都府に帰れば京都府の観光も担当しているわけでございまして、そのときに単独でできることと、関西だからできること、特に多言語につきましては、京都府だけで全てのことのものすごい多言語をやろうと思いますと、ものすごい費用もかかってしまいます。それを関西の中で、ある程度広く多言語展開ができるとかいうようなところもありますので、私自身はそういう広域連携、特にインバウンドに対しては連携する効果があるのではないかなというふうに思っております。すいません。答弁になってなかったら、すいません。

○委員長（小鍛治義広） 西脇副広域連合長。

○副広域連合長（広域観光・文化・スポーツ振興担当）（西脇隆俊） 箱ものは美術館とか博物館とか4年半前にICOMという国際博物館会議を京都でやった。そのときに京都府内でも初めて、京都市内は確か美術館・博物館のネットワークがありましたが、京都府内で初めてそれを使ってやってということ、それまであまり日本の場合、ネットワークとかが開かれたという概念がありませんでしたが、もう世界の潮流はそうなっているということなので、だから今まで人のことをPRするというのはあんまり考えてなかったの、やっとならなくて、その後コロナになってしまいましたので、その具体のアクションに今つながってませんけれども、やっぱり展示も企画もそういうことも含めて開かれたものにしてということ、今度、宮津の丹後郷土資料館も、そういう最先端の考え方ですけど、今しようとしていることなので、やっぱり本当にこれからなのかもしれない。本当は展示物とか企画も連携すれば絶対いいはずですけども、今までは多分それができてなかったのが、やっとならなくて最近そういう考え方が世界の潮流だということもあって日本にも入り出したのかなというふうに思っていますので、努力しなきゃいけない分野だと思っています。

○委員長（小鍛治義広） 田辺委員。

○田辺委員 ありがとうございます。

局長おっしゃられたように、もちろんその海外から来られる方というのは、国内でも遠方から来られる方というのは事前にルートを決めて計画立てて回っておられるのは分かっていますけれども、やっぱりその現地での副連合長おっしゃたように、視覚で入ってくるようなものであったりとか、その場での盛り上がりとか、そういったものもあるかと思えます。

国内旅行者のPRにも、恐らく、たまたま美術館の例を出して副連合長からもご答弁いただきましたけど、美術館などは恐らく、例えば大阪のどここの美術館に行けば、例えば、次京都であったりとか兵庫であったりとか奈良であったりとかで、こんなことやってるよというものが、もうほぼほぼ関心があると思います。域内での活性化にもつながるだろうと思いますし。すみません、話若干細部に行ってしまいましたけど、やっぱりもちろん各構成の府県市が切磋琢磨して頑張っているところも競争というところもありながら、やっぱり関西一体となってやるのであれば、連携、相乗効果がもう少し見れるようにしていただきたい。そういったご説明もまたいただけたらなというふうに思います。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

○委員長（小鍛治義広） 松木委員。

○松木委員 奈良県議会議員の松木秀一郎です。お話ありがとうございます。

関西広域のサイクリングイベントについて伺いたいと思います。サイクリングアプリが利用アプリとしてあって、この11月から12月まで2か月間、このイベントがなされていると思いますが、何か変化ですとか、あるいはこのアプリの、例えばダウンロード数が増えたとか、そういったあたり、もしあれば状況を教えていただきたいです。

○委員長（小鍛治義広） 小倉部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長兼参与（小倉陽子） このアプリですけども、このイベントにつきましては、毎年どこの業者にするかというのを選定しまして、今回はTraVeloさんを活用することになりました。このTraVeloさんは、ほかのいろんなサイクリングイベントを掲載してまして、そのうちの1個のコンテンツとして、今回「古墳フォトラリー」というのを実施していただいたところでございます。

正直、昨年度のほうのアプリのほうは、実際利用者数は多かった、昨年度は500を超えてましたけど、今回500には届いてない、400弱ぐらいの人数になってしまいました。その周遊を巡っていくコースによって、やはり人気がある、人気がないというのがあったのかもしれません。ただ、今までと違う点としまして、前回までは割とこのコースを完走しないといけないとかいうのがありましたけれども、今回は多くの方、あるいは初心者の方、外国人の方にも参加しやすいように周遊型で、もうどこから始めてもいいよというような取組にさせていただきましたので、今後、割とそういうのが周知徹底していけば増えていくものというふうに思っております。

今後、古墳というところで、どれだけインバウンドの方にも刺さるか分かりませんが、この秋口をサイクリングのイベントをやるというふうに定着させていきまして、増やしていきたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

○委員長（小鍛治義広） 松木委員。

○松木委員 ありがとうございます。着座にて失礼いたします。

完走をするコースだと、やはり途中で心が折れてしまうわけではないですけども、なかなか難しいというのを今伺って非常にそうだなというふうに思っておりますが、実際、今試行錯誤される中で、このサイクリングツーリズムを広げるに当たって、課題はどういうところにあるのか。もう少しちょっと教えていただけますでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 小倉部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長兼参与（小倉陽子） 一応このコースにつきましては、外国人の方も参加しやすいように、このTraVeloさん以外にも、自転車NAVITIMEというアプリのほうにも掲載されておまして、英語でも見れるような形になってございます。

やはり、一番の課題としましては、こういうイベントをやっているということを多くの方に知っていただくということが大事ですので、今回TraVeloさんのほうは会員数が2万人を超えているアプリでしたので、そこで周知ができたかもしれないですけども、関西広域連合としましても、もっと周知のほうをさせていくことで、先ほどのオーバーツーリズムの話がございましたが、サイクリングというアイテムを使うことによって、自転車でするのでオーバーツーリズムの問題の解消にもなりますので、やはりそこは周知していくこ

とが一番の課題かというふうに思っております。

○委員長（小鍛治義広） 松木委員。

○松木委員 ありがとうございます。大変理解できました。

ちなみに、このサイクリングされる中で、感覚的な話にどうしてもなるとは思いますが、鉄道であったり高速道路のように、細かく何台通ったとか、何人乗ったということが把握しづらいものだと思いますが、宿泊される方が多いのか、それとも、もう日帰りですら、朝例えば10時から3時までぐらいで、もう帰る方が多いのか、どういう構成になっているのか。その辺をちょっと分かる範囲で教えていただけますでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 小倉部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長兼参与（小倉陽子） そこまでのデータが取れては不是ですけども、今回サイクリングアプリを使うことによって、スポットが幾つかございますので、そのスポットに立ち寄るとポイントがもらえたりということがございますので、そういうところをたどっていけば分析などもできると思いますので、ちょっと研究していきたいと思ひます。ありがとうございます。

○委員長（小鍛治義広） 松木委員。

○松木委員 ありがとうございます。

最近サイクリングに詳しい方、趣味の方とお話しする機会がありまして、サイクルイベントの前日から結構宿泊なさる方が多いというふうに伺ってまして、これはかなり観光にとつても、スポーツ振興はもちろんですけれども、プラスに働くものかなというふうに非常に感じております。そういう意味において、どういふエリアから来る、どういふ層の年齢層であったり、何名ぐらいの方が何日間、日帰りなのか複数の日数なのか、滞在するのかがイメージをして、あるいは想定をしてサイクリングルートであったり様々なプランをより出していけるといいのかなというふうに感じております。プラス、各府県が提供できるものであったり、強みをそれぞれうまく混ぜた提案というのをよりできるというのかなというふうに感じております。

先ほどオーバーツーリズムの話がありましたけれども、私も今日奈良県から来て、朝、奈良のあるお寺さんに行つてましたけれども、普段なかなかな人が来ないというところもよく聞いてます。そういう意味において、分散してもらうには、このサイクリングというのが非常に重要な役割になると思ひますので、ターゲットを想定しながら何が提供できるのかというの、府県をまたいで検討することで、よりこのサイクルツーリズム振興につなげていただきたいなと思ひます。

ちなみに、大阪府と京都府の宿泊者数の3%が、例えば奈良県にシフトするだけで、奈良県の宿泊数は倍増するというふうに言われてますけれども、うまくそれぞれの持っているものを提供し合つてできればというふうに思ひますので、そういった検討もいただければと思ひます。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませぬか。

九里委員。

○九里委員 ご説明ありがとうございます。

先ほど来、坂越副委員のほうから、リーダー文化なり観光の首都というお話がありましたが、今もルールがありますように、実は滋賀県も奈良県と同じように、京都さんや大阪・神戸さんからちょっとずれていって、なかなかインバウンドの方、あるいは広域で来ていただけないという状況が悩みの種ですが、このNHKの大河ドラマで、前回、結構滋賀県、ドラマになるのが多いですが、「麒麟がくる」という明智光秀のそれがあつたときにちょうどコロナが来まして残念な状況になってしまいましたが、今回また「光る君へ」ということで、紫式部の生誕のあの石山寺を中心に、非常に滋賀県としては何とか観光なり文化なり、そういうアピールができないかということをやっていますが、なかなかやっぱり関西広域連合なり、そういう広くいろんな手法を使っただきながら呼び込みをするということがあれでして、実は明日から、琵琶湖大津の「紫式部トレイン」ということで、JR西日本さんが兵庫県の上郡から滋賀県の米原までのルートでラッピングトレイン、ラッピング電車を、先ほど彦根城の話もありましたが取っていただきます。あるいは京阪さんが紫式部なり源氏物語をかなりアピールしてインバウンドをやっていけないかということをやっていますし、近江神宮という百人一首なり、着物なり、先般も本会議等がありますように食文化なり、いろんな形が京都市さん、京都府さんを中心に派生・波及ができると思いますので、ぜひこういう大河ドラマとか、あるいはもっと言えば、先ほどJALさんの残念なお話が副連合長からありましたが、飛行機なんかは、ああいうものに、そういう大河なり、いろんなものをラッピングしていただくことによって、なかなか一府県市ではできないような、そういうものを関西広域連合で予算化していただく施策を打っていただけると、そういうことによって、先ほど小原委員なり田辺委員からもありますように、広域で観光なり文化をもっと海外、いろんな国内でも地方の方を関西に呼び込めるのではないかなというふうに思いますので、これはご提言と生意気ながらお願いの世界ですが、そういう報道なり全国的に非常に視聴率の高い人気のせつかくチャンスのあるものを生かさない手はないなというふうに思いますので、ぜひお願いをしたいなというふうに思います。

○委員長（小鍛治義広） 西脇副広域連合長。

○副広域連合長（広域観光・文化・スポーツ振興担当）（西脇隆俊） ちょうど、もうドラマが放送が開始されましたので、今からできることかどうかと分かりませんが、少なくとも「光る君へ」は、関西広域連合として何かしてることはないんだと思うんですけども、ただJRもそうですし、それから自治体それぞれ、うち自身も含めて、あと越前市の福井県等でイベントをやっていますし、それからNHK自身が相当大河ドラマの場合はPRに努めておられるということもありますので、ちょっと何ができるか分かりませんが、京都府知事としても今のお話を十分受け止めて施策には生かしたいなと思います。関心は高いですね。ただちょっと戦のない大河ドラマはいつも苦戦するので若干心配していますが、この間の初回放送のパブリックビューインが京都テルサでありまして、出演者が出られるということもありましたが、トークショー、20倍の倍率でした。吉高由里子さんが運の強い人ばかり700人見てもらってというふうに言っていましたけど、ある程度、特に女性にあっては関心が高い。まさに平安時代の男女共同参画なんですね。今からでもできることについては、ちょっと考えてみたいなと思いますので、よく滋賀県ともお話しさせていただき

たいと思います。

○委員長（小鍛治義広） 九里委員。

○九里委員 ありがとうございます。

今からというお話が冒頭ありましたが、やっぱり次の次、先に先にやっぱり連合としても、次、何のドラマが来るんだろうと。そういうことがやっぱり非常に連携する意味があると思いますので、せっかく関西にこうしてピックアップされて、それから注目をされるものが来れば、そのときにやっぱり先に先に施策を打っていくことが大事ではないかなと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

北川委員。

○北川委員 もうあまり時間がなさそうなので簡潔にいきます。

どこに聞くかなと思いましたが微妙ですけども、これは全体の観光を含めたところで、全体でばくっとお伺いします。

クレジットカードのタッチ決済は進んでいるのでしょうかということも1つ。クレジットカードのタッチ決済。要は、来てくれたけれども、その場で、例えば携帯でもうクレジットカードでとばっと、そうすればいいのですけども、例えば現金を持ってないだとか、電子マネーなどはだいぶ最近是对応してるとは思いますけども、そこでの結局支払い等々に対応できるのが、かなり進んでるのかなというのが。せっかく宣伝して来てくれたものものと。大阪とかこういうところでしたら、そうそう問題はないかとは思いますが、地方に行けば行くほど、その機運がちょっとあるかなというのが思ったところで確認と、もう1つ、神戸世界パラ陸上選手権大会の開催支援ということで、去年の9月とか11月等々で障害者スポーツ等々に関しては取り組まれています、神戸のパラリンピックは今年の5月ですよ。もう何もないのでしょうか。まだ時間はあると思いますが、そのことでお伺いします。

○委員長（小鍛治義広） 野口局長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局長（野口礼子） クレジットカードのタッチ決済のお話でございますけれども、確かに委員ご指摘のとおり、都会ではどこでもできるというような状況ですけれども、どうしても京都府の場合でも地方のほうに行きますと、どうしてもこの支払い、そこは便利ですけども、お店のほうにお金が入ってくる、このちょっとタイムラグみたいところがありまして、なかなかキャッシュレスを進めたい、進めたいと思っても、お店側のほうのリターンのある期間というところで、なかなか進まないという課題はありました。ただ、コロナ禍の中で、かなりいろんなスマホ決済ですとか、いろんなことがどんどん進んでおりますので、少しちょっとインバウンドについても対応できるかどうかといったところは、各構成府県市さんなどのご協力も得ながら、少し調査のほうをしてまいりたいと思っております。

○委員長（小鍛治義広） 小倉部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長兼参与（小倉陽子） 神戸の世界パラ陸上競技選手権大会、今年の5月17日から25日に開催いたします。理解促進を図っていくということで5ページに記載しておりますような事柄をやっておりまして、特に神戸・和

歌山でやっていまするんですけども、車椅子に乗って陸上するのはどういうふうにするのかという体験などをやっていただいて、理解促進に取り組んでいるところでございます。

○委員長（小鍛治義広） 北川委員。

○北川委員 では競技としては、もう特に今、今後ないということでもいいのですね。はい。分かりました。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

それでは、ご発言も尽きたようでありますので、本件につきましてはこれで終わります。ここで暫時休憩をいたします。

再開は14時40分といたします。よろしくお願いいたします。

（休憩）

（再開）

○委員長（小鍛治義広） それでは、産業環境常任委員会を再開いたします。

次に、「広域環境保全の推進について」を議題といたします。

最初に、三日月広域連合長からご挨拶をいただきます。

三日月広域連合長。

○広域連合長（広域環境保全担当）（三日月大造） 連合長をお引き受けしておりますが、行政担当分野といたしましては、広域環境保全を担当しております、三日月でございます。

関西広域連合議会第31回産業環境常任委員会の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。それでは座って失礼いたします。

長時間、またそれぞれ遠路よりご参加いただきましてありがとうございます。日頃のご支援やご指導に対しても、厚くお礼申し上げます。

昨年、世界的に観測史上最も気温の高い年でありましたこと、気候変動への対応は一刻を争う重要な課題だと受け止めております。

昨年12月にUAEのドバイで開催された国連の気候変動会議COP28では、1.5℃目標の達成に向けて、2025年までの温室効果ガス排出量のピークアウト等が合意されました。世界のエネルギー情勢も踏まえ、再生可能エネルギーの拡大や省エネの必要性はますます高まっております。気候変動は、人間の生活や自然の生態系に様々な影響を与えますが、琵琶湖の状況といたしましては、例えば、表層の水温が約40年間でおよそ1.5℃上昇をしていることを確認しており、また近年、北の湖、北湖におきまして、全層循環の未完了、それに伴う湖底の貧酸素状態の長期化も確認されており、特に湖底に生息する生き物への影響も懸念されているところです。

国においては、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしをつくる国民運動、通称「デコ活」を推進しておりますが、関西広域連合としていち早く賛同し、令和5年8月に「デコ活宣言」を行ったところであり、関西脱炭素社会の実現を目指して、不断の取組を行っていかねばならないと認識しております。

構成府県市におきましても、例えば環境省の脱炭素先行地域に、これまで堺市・大阪市・京都市・滋賀県が選ばれるなど、各地域で脱炭素化に向けた取組を進めているところ

です。広域環境保全局では、広域環境保全計画第4期に基づきまして、脱炭素社会づくりなど様々な取組を進めており、本日は実施しております各種事業の概要について、説明させていただきます。

現行計画では、地域環境・地球環境問題に対応し、環境・経済・社会の統合的向上による持続可能な関西の実現を目標に、温室効果ガス排出抑制や再生可能エネルギーの導入・促進など、地球温暖化対策の取組、これが1つ目です。2つ目といたしましては、カワウ・ニホンジカ等の対策や生物多様性など、自然共生型の社会づくりの取組、これが2つ目。そして3つ目といたしまして、廃棄物の抑制に向けた循環型社会づくり。そして4つ目、これからの関西を支える持続可能な社会を担う人育ての、この4つの分野において事業を展開しております。

自然共生社会づくりの取組の1つである、例えば、カワウ対策につきましては、府県の境界を超えて広域的に移動すること、地域によって被害の状況が異なることなどから、関西地域カワウ広域管理計画を策定いたしまして広域での管理を行っているところです。

また、3つ目の循環型社会づくりの分野では、プラスチックごみや食品ロスの削減に加え、ファッションロス削減に向けた取組について、関西全体で統一的な運動を展開し、ごみ減量化に係る機運醸成と3Rの実践行動を推進しているところです。

多くの固有種を含む琵琶湖淀川水系をはじめとする関西の豊かな自然環境を基盤といたしまして、様々な生態系サービスを次世代に引き継いでいくためにも、関西地域の特性や強みを生かしながら、環境・経済・社会の統合的向上により、持続可能な社会の実現を目指したいと考えております。

引き続き、先生方のご指導、ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

私からは以上でございます。

○委員長（小鍛治義広） ありがとうございます。

それでは、広域環境保全の取組について、広域環境保全局から説明をお願いいたします。
白井局長。

○広域環境保全局長（白井 稔） 広域環境保全局長の白井でございます。どうぞよろしく願いいたします。着座にて失礼させていただきます。

それでは、広域環境保全の推進につきまして、ご説明をいたします。

お手元の資料3をお願いいたします。

今回は、令和5年度の事業概要につきまして、12月までの実績を交えながら説明させていただきます。なお、資料は2枚1組のスライドで構成されております。右下に記してありますスライド番号で説明させていただきます。

資料のスライド4をご覧ください。関西広域環境保全計画について、ご説明をさせていただきます。本計画は、このページの2番の計画期間にありますとおり、令和5年3月に第4期となる計画を策定いたしまして、広域に取り組むべき環境保全施策について定め、また目標を地域環境・地球環境問題に対応いたしまして、環境・経済・社会の統合的向上による持続可能な関西の実現としております。

スライドの5をお願いいたします。この計画では、広域で取り組む施策に関しまして3つの視点を掲げております。1つ目は、スケールメリットを生かすものでございます。2

つ目は、関西広域連合が方向性を示し、府県市が統一的に取組を展開しようとするものでございます。3つ目は、構成府県市がもつ優良事例を関西全体に波及させるというものでございます。

スライド6をお願いいたします。こうした視点を踏まえまして、SDGsとの関連性も意識しながら、現在、広域環境保全分野では脱炭素社会づくり・自然共生型社会づくり・循環型社会づくり及び持続可能な社会を担う人育ての4つの施策に取り組んでおります。具体的な施策につきまして、順に説明をさせていただきます。

まず、脱炭素社会づくりの推進について、スライド8をお願いいたします。スライド8でございますが、今年度は温室効果ガス削減のための取組といたしまして、関西脱炭素アクション等の企画・調整・実施、関西脱炭素フォーラムの開催、効果的な施策推進に関する情報収集・調査研究・情報発信の3つの事業を実施しております。

右側をご覧ください。関西脱炭素アクション等の企画・調整・実施につきまして、関西脱炭素アクションのポスターを作成の上、夏季及び冬季に省エネ等の呼びかけを実施しているところでございます。

スライドの9をお願いいたします。スライド9では、関西脱炭素フォーラムにつきまして、11月21日にマイドームおおさかで開催いたしましたイベントでございまして、第1部の講演のほか、第2部では展示ブースでの交流・ネットワーキングを実施いたしまして、49企業・団体に出展をいただきました。310名の方にご参加をいただきまして、出展企業や参加者同士の脱炭素に向けた交流が盛んに行なわれまして、優良事例の共有につなげることができました。

スライドの10をお願いいたします。効果的な施策推進に関する情報収集・調査研究・情報発信につきましては、構成府県市とともに担当者会議をこれまでに2回開催いたしまして、関西広域連合の事業のほか、各府県市における施策等の情報交換をしております、それぞれの施策のブラッシュアップを図っているところでございます。

次に、スライド11をお願いいたします。スライド11、自然共生型社会づくりの推進につきまして、生物多様性に関する情報の共有及び流域での取組による生態系サービスの維持・向上、関西地域カワウ広域管理計画の推進、広域連携による鳥獣被害対策の推進の3つの事業を実施しております。

続いて、スライド13をお願いいたします。生物多様性に関する情報の共有等については、多様な主体による地域の自然の保全や活用の取組を推進する目的で、平成28年度に選定いたしました「関西の活かしたい自然エリア」23箇所の中の1つであります、大阪平野の南部におけるスタディツアーの実施や、優良事例集の作成を行っております。

次に、スライド15をお願いいたします。カワウ対策では、関西カワウ広域管理計画に基づきまして、生息動向や被害のモニタリング調査等を実施し、被害地域での対策が効果的・効率的に進むよう支援をしております。カワウによる水産被害状況でございますが、漁業組合等を対象に行っております、滋賀県で被害が悪化していると回答する漁協が増加しており、近年春の個体数が増加していることが影響していると考えられます。

続いて、スライド18をお願いいたします。広域連携による鳥獣被害対策の推進でございます。府県が策定している第2種特定鳥獣管理計画を効果的・効率的に運用するための知

見を整理し普及することで人材育成を行います。

また、スライド19のとおり、市町村が行います有害捕獲事業につきまして、安全面等を考慮した実施体制の構築に向けて、考え方の整理のために検討会を実施しております。

次に、スライド21をお願いいたします。循環型社会づくりの推進につきましては、リデュース・リユース・リサイクルの3R等の統一取組の展開といたしまして、プラスチックごみゼロ・食品ロス削減・ファッションロス削減の3つの取組を行っております。マイボトル運動の推進では、マイボトルスポットMAPを運営しております、マイボトルの利用可能な店舗の拡大に努めております。

スライド22をお願いいたします。マイボトルスポットMAPについては、認知度向上を図るため、ステッカー等の啓発資材を作成いたしまして、登録店全店舗に設置を呼びかけることとしております。また、その下にありますように、プラスチックごみ及び食品ロスについての現状と課題を周知し、住民・事業者等による実践行動を促すため、プラスチックごみゼロ及び食品ロス削減シンポジウムを12月22日にオンラインで開催をいたしました。

次に、スライド23をお願いいたします。スライド23、ごみを出さないライフスタイルへの実践取組を広めまして定着を促すため、プラスチックごみゼロや食品ロス削減に取り組む団体や企業と連携した啓発イベントを9月9日に開催し、多くの方にご参加いただきました。

次に、スライド24をお願いいたします。ファッションロス削減に向けた取組としまして、ファッションロスの認知度などの現状を把握し、施策等に反映させる基礎資料とするため、関西の住民の方に意識調査を実施をいたしました。アンケートの結果取りまとめを今行っているところでございます。

最後に、持続可能な社会を担う子育ての推進についてでございます。スライド26をお願いいたします。スライド26でございます。人材育成の広域展開に取り組んでおります。

続いて、スライド27の左側をお願いいたします。地域特性を活かした交流型環境学習事業につきまして、関西がもつ自然・歴史・文化などの豊かな地域特性を活かした交流型環境学習の1つとして、滋賀県の学習船「うみのこ」を活用した親子体験航海を8月と11月に計2回開催をいたしております。

また、同じスライドの右側でございます。徳島県自然体験教室では、8月に干潟での観察会を実施をいたしました。交流型環境学習事業は、いずれも各構成府県市から多くの応募がございまして、参加者には関西がもつ豊かな自然環境を体験いただきました。

スライド28をお願いいたします。今年度から新たに開始いたしました若者参加による環境学習プログラム推進事業でございます。持続可能な社会の担い手となる若い世代を対象に、環境課題への理解への深化、日常生活での環境配慮行動の促進を目的として実施するものでございまして、8名の学生サポーターの参画の下、企画会議でイベントの検討を進めまして、2月には大学生等を対象にした環境イベントを開催する予定でございます。

その下でございます、環境・経済・社会のつながり創成に向けた交流事業でございますが、環境保全団体・金融機関・企業等を対象に、ESG地域金融の可能性・競争による持続可能な地域づくりをテーマといたしましたオンラインセミナーや、対面の交流会を開催しております。今年度中にこれまでの事業をまとめた事例集を作成してまいります。

以上、広域環境保全計画に基づく取組についてでございます。

今後とも、計画に示す3つの視点に立ちまして、広域として効果のある取組を展開してまいりたいと存じますので、委員の皆様方のご指導を、どうぞよろしくお願いをいたします。

ありがとうございました。

○委員長（小鍛治義広） それでは、質疑に移ります。

ご発言があれば挙手願います。

菅谷委員。

○菅谷委員 京都市、菅谷です。ご説明ありがとうございました。

資料を拝見していて、5ページの3つの視点というところは、書いてあることが非常にすばらしいことが書いてあると思えました。スケールメリットの活用であったりとか、関西広域連合として方向性を示して、構成府県市にやってもらうとか、優良事例の波及、どれもいいと思えますけど、じゃあそれは具体個別の事業に落とし込んだときには、全く視点とはかけ離れた事業をしておられるんじゃないかなというふうに正直思っておりまして、例えば令和5年度の、これは8ページですけど、統一省エネキャンペーンの実施、これは関西広域連合として予算を取って、このキャンペーンを実施されているということでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 白井局長。

○広域環境保全局長（白井 稔） はい。そのとおりでございます。

○委員長（小鍛治義広） 菅谷委員。

○菅谷委員 そうなったときに、スケールメリットの活用というところが、これもう日本全国どこでもクールビズであったりとか、冬の服というのは、どこもかしこもやっていることを、あえて関西広域連合としてやる必要があるのかなというのが、予算を取ってですよ。僕にはちょっと理解ができないんですけども、その辺はどういうふうにお考えですか。

○委員長（小鍛治義広） 松田課長。

○広域環境保全局CO₂ネットゼロ推進課長（松田和浩） 今、菅谷委員がご指摘いただきました、関西脱炭素アクションという形で、資料で言いますと8ページの右側のところにポスターの絵を2枚ほど入れさせていただいてますが、ご指摘のように、全国的にこういう夏のエコ、冬のウォームビズというのは一定周知はされていますが、関西広域の中で統一的に、今年であれば冬のエコスタイルは12月1日から3月31日までですということを一斉に同じポスターを使いまして周知することでスケールメリットを図っていきたいということで、予算もいただきまして約80万ほどですけど、スケールメリットを確保していきたいということでさせていただいているところです。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） 菅谷委員。

○菅谷委員 ありがとうございます。

僕、今年度から、関西広域連合議会の議員をやらせてもらっていますが、2つ、この議会に入らせてもらって感じたことが、1つは関西広域連合はこんなに予算少ないのかと

というのが驚いたこと。

もう2つ目は、何でこの自治体がやっているようなことを関西広域連合としてしてるのかなという、この2つにちょっと驚いていて、今のクールビズ・ウォームビズもそうですし、一番最後の27ページの地域特性を活かした交流型環境学習というの、別にあるどこかの自治体、この関西構成府県市でやっているところに、声かけして別の自治体の関西広域連合の子どもたちを呼べばいいだけの話かなというふうに正直思っていて、さっきの話に戻りますけど、予算が少ないのであれば、僕はもう必要最低限やるべき事業だけ残して、こういう事業は見直して行って、予算を別のところに回していくというふうにしてもらったほうが、正直先ほどのウォームビズ・クールビズも、別にやっても邪魔にはならないと思いますけど、じゃあ、やって具体的にどういう効果が得られたかといったら多分お示しできないと思うんですよ。だから関西広域連合として、ウォームビズ・クールビズでやった事業に対して、じゃあこれスケールメリットを生かしてやっておられるというふうにおっしゃってますけど、じゃあそのリターンは何でしたかといったら、多分お示しできないというふうに僕は思っているんで、そうであれば、最初冒頭申し上げた視点1から3というのは非常にすばらしいと思っています。関西広域連合というのは、こうあるべきだと僕も思うんですけど、そういった事業に特化してやってほしいなというふうに思うので、ほかの委員さんでも同じようなことをおっしゃっておられる委員さんもおられますが、ぜひそこら辺をちょっと念頭にやっていていただけたらなというふうに思います。

○委員長（小鍛治義広） 三日月広域連合長。

○広域連合長（広域環境保全担当）（三日月大造） 私も知事になって10年目で関西広域連合に参加していて、おっしゃるとおり予算少ないなあとか、あとは、それぞれの府県市がやってることを、また都道府県がやってることを広域連合が重ねてやると、これは二重三重行政になるから、これはやっぱり気をつけてよくみないといけないなというのは絶えず思っています。

重要なお指摘をいただいたなと思って、例えば例に挙げていただいた8ページの、この統一省エネキャンペーンなどは、この冬なんかは比較的電力の供給が安定的にきてますので、それほどこのキャンペーンの意義というのが感じられなかったかもしれないですけど、夏の冷房、冬の暖房で、厳しかったときは結構関西電力なんかとも、大阪ガスなんかとも協力しながら、このキャンペーンを展開していて、広域で通勤・通学される方も多いため、一定の緩和に役立っていたんじゃないかという、こういったところがあります。

また、最後に挙げていただいた交流型の環境学習のところも、おっしゃるとおり、個別にやっているからいいんじゃないかという視点がある一方で、やっぱりつながってるから、例えば水のつながりなんかで有機的に感じられるので参加しやすいよね、参加したことがまた学びとして得られやすいですよということがあるので、これは関西広域連合として一定取り組むべきじゃないかということで残ってますが、今後、例えば限られた予算の中で、もっと有効な使い方、同じやるにしても、もっと関西広域連合がスケールメリットを生かしてやれる分野というのをよく考えてやっていくように検討していきたいというふうに思います。

○委員長（小鍛治義広） 菅谷委員。

○菅谷委員 ありがとうございます。

最後に、二重行政、三重行政にならないようにという視点でやっていっていただいているというご答弁でしたけど、そうであれば、じゃあ、このクールビズ・ウォームビズのキャンペーンを関電と協力して関西広域連合としてやっているんだと。スケールメリットを生かして、これが最適解だということであれば、各都道府県、あるいは各政令市に下して、関西広域連合でやってるから、もう構成府県市は、ここに割いてる予算を何割ぐらいカットして、もう事業をちょっと縮小してもいいですよという、そういう共有はされてるんですか。

○委員長（小鍛治義広） 三日月広域連合長。

○広域連合長（広域環境保全担当）（三日月大造） 恐らく関西広域連合でやってるから、構成府県市で取って代わるというところまではいってないかもしれませんが、一定その辺の役割分担、広域的な啓発キャンペーンは関西広域連合に、そして府県市内でやるべきことは府県市内でという、このすみ分けはやれてるのではないかなというふうに思いますけれども。

何かこういう事例で同じことやってるじゃないかということがあれば、ぜひご指摘いただいて、関西広域連合で引き受けるのか、府県市にお任せするのか、この議論は積み重ねていきたいというふうに思います。

○委員長（小鍛治義広） 菅谷委員。

○菅谷委員 分かりました。

僕の感覚ですけれども、京都市では少なくともクールビズ・ウォームビズは、職員は少なくとも市役所全体でやっていて、どれくらい広報に予算を割いてるか、僕はちょっと即答できないですけれども、同じようなことをしてます。多分、ほかの構成府県市も、僕は調べてないですし見てないですけど、多分このご時世、クールビズ・ウォームビズのことを構成府県市でやってない自治体のほうが多分少ないというふうに思うので、多分そこはすみ分けがきちんと十分にはできていないのかなというふうに一議員としては感じましたので、ぜひそこら辺は現場の職員さんでまたご検討いただけたらというふうに思います。

○委員長（小鍛治義広） 三日月広域連合長。

○広域連合長（広域環境保全担当）（三日月大造） ありがとうございます。

ご指摘の点を踏まえて、こういったキャンペーンものというのが構成府県市と重複がないか、改めて点検させていただきたいと思いますし、1点だけ補足すれば、この8ページの下段にある、エコオフィス、オフィスそのもののいろんな優良事例を表彰したり把握したり、また宣言してもらったりということと絡めてやりましたので、これまで関西広域連合としてやっていこうということがありましたので、ちょっとその辺り、状況の変化も踏まえて、どういうことが改善できるのか検討させたいと思います。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

北浜委員。

○北浜委員 環境問題について、まだこれは令和5年度の報告ということになるんでしょうけれども、それ以外の計画の概要ですが、一般質問にしましても、私どもも海洋ごみのプラスチック、マイクロプラスチックごみの出先を調べるべきではないかという一般質

問もさせていただきました。ですから、川というのは他府県につながってますので、どこのゴミかというのを追及すべきでないかという提案をさせていただきましたし、私どもの兵庫県の吉岡委員にしても、その大阪湾の栄養についての各都道府県の協力が必要じゃないかというご提案もさせていただきました。そういった私どもの委員に対する、ただの提案ではなくて、きっちりと事業につながっていったらというものは何かあるのでしょうか。これから、私ども、そのプラスチックごみゼロとかどうこうについての事業がなされるのかもしれないけども、ただ聞きました、頑張りますじゃなくて、こういう事業になりましたという報告があるのでしょうか。ちょっとお聞きします。

○委員長（小鍛治義広） 市田課長。

○広域環境保全局循環社会推進課長（市田重宏） ありがとうございます。

プラスチックごみについてでございますが、やはり発生抑制というところを、まずしていかないといけないということで、これはプラスチック対策検討会のほうにもなりますけども、例えば、どこからごみが発生しているかというふうなところで、その水系モデルをつくられております。こういったことを、ほかの構成自治体に、このアプリといいますか、この手法を水系モデルをお渡しして、それを活用していただくということで、まずそのマイクロプラスチックというものの、まずプラスチックがどこから出ているかということ調べていただくということになろうかと思えます。

あと、例えば滋賀県の場合ですと、3年かけて琵琶湖に流入するプラスチックごみ、これがどういうものが入ってきて、それが琵琶湖にたまって、あるいは琵琶湖から出ていくものがどんなものがあるか、どれだけあるかというようなことで、その終始を調べようということで3年計画で、この令和5年度から調査をしているところです。

それぞれほかの構成自治体さんにおいても、いろいろ取組はされておりますので、そういったところを情報共有とかさせていただいて、そして今すぐにとというのはなかなか難しいですけども、そういうような取組を元に、マイクロプラスチックの起源等について調べていければというふうに思っているところです。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） 北浜委員。

○北浜委員 栄養塩については、どうでしょうか。吉岡委員が言ってらっしゃった。大阪湾の栄養塩についてですけども。それは、ここではないですか。ですから、下水道処理場のそのレベル動向を兵庫県はかなり栄養塩を放出するようにレベルを下げていったんですけど、大阪・和歌山さんがまだまだそこまでなってないという一般質問をされたと思います。それについては、どのようなご回答になるのでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 三日月広域連合長。

○広域連合長（広域環境保全担当）（三日月大造） ありがとうございます。

まず、今お尋ねいただいた吉岡議員が先般、大阪湾の栄養塩のことを尋ねられて、こういったことは我々も構成府県市内で情報共有させていただいて、どういう例えば見直しができるのか。また、それぞれの府県市の基準をどのように変えていける可能性があるのかという、こういう検討をさせていただいております。事業化というよりも、基準規制の話ですので、どういう規制のもちかたがいいのかという、こういう検討をこれからも重ねて

いきたいというふうに思っています。

ちなみに例えば、兵庫県の議員さんから、こういうお話が出たけれども、琵琶湖のこういう基準づくりで、何か取り入れられることがあるのかということで、私も早速滋賀県で検討させていただいてますけど、海に流せる基準と、その閉鎖水域でそれを飲み水に使わせてもらう水域の基準とは、ちょっと変える必要があるんじゃないかということで、今回は同様の基準の変更というのをやるのは見合わせているんですけども、不断にそういったご指摘を下に、検討はそれぞれの府県市においてさせていただいております。

また、最初にお尋ねいただいたごみの問題は、これ万博の1つのレガシーにもなっていくんじゃないかと思っております、今、先般500日前で、淀川のごみのごみ拾いをやって、私も参加して、実際どんなごみがどれくらい出てるのかというのを全部カウントして、種類分けしてカウントしてというのをやり始めてます。これから400日前、300日前、200日前、できれば節目節目でやっていながら、どのように上下流の連携というのをやりながら関西モデルとしてごみを減らしていけるのかという、こういう体を動かした取組と、そして学術的に何か検討していくところと、これ合わせ技でやっていけたらいいなというふうに思っているところです。そういうことを今度、琵琶湖淀川のシンポジウムを3月にまた予定しておりますので、こういったところでも共有し、発信し、広げていけたらいいなというふうに思っております。

○委員長（小鍛治義広） 北浜委員。

○北浜委員 ありがとうございます。

60年前に執筆された「沈黙の春」というレイチェル・カーソンさんのお話、あれも私も読んでますけど、60年前に農薬の環境破壊について言われていることが、いまだに農薬は使い続けられてる。青森の奇跡のリンゴという形で農薬を使わないという、そういった取組がありますが、いまだにやはりそこまでは日本全国で共有できてるということではない。世界各国で共有できているということではないもので、こういった環境問題は、本当に地球温暖化、もう後ろがないという、60年たってもまだ変わってないことがたくさんありますのに、今から何年、お尻を考えて、今からやりますじゃなくて、何年までCOP、いろいろ世界的基準が使われてますけども、本当にそれにできるのかどうか。せめて関西広域連合のこの構成府県市では、ここまでやってるというのを本当にスケールメリットを活用して、1県ではできない、そういったことに取り組んでいただければと提案をさせていただきます。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） 三日月広域連合長。

○広域連合長（広域環境保全担当）（三日月大造） ありがとうございます。

とても重要な視点だと思います。そういうことこそ関西広域連合で、とりわけ環境保全局でやるべき、私もテーマだと思います。例えば、海ごみ、あれは同志社大学の原田先生だったと思いますが、大阪湾で調べると、ゴルフボールとかライターとか、こういうものが多かったと。大阪湾で出たというよりも、むしろ上流由来のものじゃないかと。これをぜひ共有して、お互いで削減していくような取組をできるのは、これは国というよりも、むしろ、こういう自治体ならではのテーマじゃないかというご提案をいただいたこともあ

りますので、ぜひ率先して、そういう取組やモデルを示していけるように頑張っていきたいというふうに思います。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言ございませんか。

吉岡委員。

○吉岡委員 図らずも名前が出てしまいました。今日は遠慮しとこうかなと思ひまして。三日月連合長のお顔を見るたびに、連合長の耳の近くまで行って、この栄養塩の話は常々させていただいております。ありがとうございます。

令和4年に、実は私どもの前任でございます、今の岡本議長とも非常に親しくさせていただいております、私どもの淡路市選出の原テツアキ議員が連合会議議員のときに、やはり大阪湾のこの栄養塩の問題も、ちょっと視点の違う質問をさせていただきました。フォローアップとしては、関西広域連合で各府縣市さんの水産担当課長さんなんかのご協議をいただいて、水産庁さんに要望という形で東京に取りつないでいただいたと、そういうフォローアップの文書も頂戴したところでございます。

今、北浜委員からのご指摘もありましたけども、私申し上げたいのは、もう耳にタコができるくらい申し上げさせていただきました。タコの名産地、明石を抱えております兵庫県ですので、今ご存じのとおり、下水道の問題が出ておまして、この間の私の質問もそこでもございました。下水道というのは、今、国土交通省、旧建設省の管轄下にございます。そしてまた環境省の部分での環境の問題、連合長がご指摘いただきました、内水面と海面では違うんだよ。もうそれも我々は重々承知をいたしております。そして、魚の漁獲量、海の魚の再生という面では、水産庁と。いわゆる農林水産省ですか。3省庁を絡む問題ですから、こんなの法律をつくらうと思つたら、本当にもう一省庁でできる法律じゃないような大きい分野でございます。

この各行政、滋賀県・京都府・大阪府・そして我が兵庫県・そして和歌山県、これちょっと残念ながら三重県が入ってらっしゃらない。淀川水系でしたら三重県まで入ってくるんですけども、この内部で、私もこの間からしつこく兵庫県庁内で、縦割りですとやら、これはどうにもならん問題やから、共通認識を持ってしっかりやってくれと。だから水産課長に言ったんです。今度は私、建設委員長なものですから、建設のほうの課長以下職員に、我々議員とそこで共有している研修のための資料を作ったり、漁協さんなんかとやってるの、これは建設の分野、よくある下水道等の職員さんに研修を受けてもらおうやないかと。ぜひ考えてくれと、副知事どうやと言つたら、副知事も分かりましたということなので、いやもうほんとこれを全体として各府縣市さんの中で取り組んでいただけたらなと考えてございます。最終的に、やはり食糧の安全保障で、餌をやらんと育つ魚というものが関西で上がってくるかどうかというのを大阪湾、そしてまた京都府さん、兵庫県の日本海外側、これにかかってございますので、ぜひともそういう方向でお考えいただいて、関西広域の実が上がる、ほんとに実が上がる分野だと考えてございます。長く、ある程度の年数はかかるかもしれませんが、それとまた今回はこの2年で全てが決まってしまう、25年先までほんとに捉われる数値が出てしまうということで、その部分で私危機感を持って訴えさせていただいております。

ぜひとも大阪府・大阪市さんの議員さんにもご興味を持っていただいて、それぞれ知

事・市長に訴えていただければと思っております。どうかよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

松木委員。

○松木委員 失礼します。松木です。

1点ご質問ですが、まず、この3つの視点、5ページです。非常に重要な論点と考えておりまして、方向性の提示というのも極めて重要なところだと思います。

その中で少し伺いたいのですが、この脱炭素であったり省エネを進めている中で、電力がつくられてから、家庭であったり工場に供給されるまでにかかなり電力ロスがあるというのを伺っておりまして、そのロスを減らすための取組というのは、何か今進めておられるのでしょうか。

○委員長（小鍛治義広） 松田課長。

○広域環境保全局CO₂ネットゼロ推進課長（松田和浩） ありがとうございます。

電力の送電ロスということで、通常の一般的な送電線を通りますと抵抗がありますので、発熱という形で電気がロスをしまして、我が国全体で言いますと、送電ロスが大体3%ほど発生するというような状況になってます。その3%、数字としては非常に少なく見えますけど、絶対量が非常に大きいので、いかにそのロスを少なくしていくかということで、その送電のそもそもの仕組み自体を合理化していくということが国のほうでもされてますけれど、一方、自治体のほうでは、いわゆる電力の地産地消ということで、環境省が主体となりまして、地域脱炭素先行地域ということで、非常に狭いエリアでエネルギーの生産と消費、これを進めてます。

関西広域連合の構成府県市の中に、脱炭素先行地域、滋賀県でしたら県も実施主体となりまして、2か所、米原市と湖南市というところがありますけれど、そこで選定をさせていただいております。そういう地産地消型のエネルギー、これを先進的な事例として、スケールメリットという観点で関西広域連合の中でその形、やり方、進め方というのを共有して、同じような形で脱炭素ドミノを進めていこうということで取組をさせていただいているところです。

以上です。

○委員長（小鍛治義広） 松木委員。

○松木委員 ありがとうございます。

先ほど、菅谷委員からもお話あったように、あれもこれも取り組んでしまうと、なかなか厳しい部分、予算面の課題もあると思うのですが、電力ロスというのは非常に大きなテーマと考えておりますので、今後も引き続き進めていただければと思っております。

最近ですと、据え置き電池を置くことで、より電力を効率的に消費することができるというお話も最近伺っておりまして、供給側の効率化と、それから使う側の効率化というのは、この計画でもうたわれていると思いますが、その供給から使うまでの間のところも非常に重要と考えてます。そういう意味では、食品ロスであったり、ファッションロスというのが今回記載されていますけれども、同様に重要と考えております。関西のある自治体では、据え置き電池の会社、提供している会社と連携をしているというお話も伺った

ことがありまして、もし良い取組なのであれば、広域で進められていければなというふう
に思っております。

以上です。ありがとうございます。

○委員長（小鍛治義広） 他にご発言はございませんか。

それでは、ご発言も尽きたようでありますので、本件につきましては、これで終了いた
します。

この際、他に何かご発言はございますか。

それでは以上で、産業環境常任委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後 3 時 22 分閉会

関西広域連合議会委員会条例（平成23年関西広
域連合条例第14号）第28条第1項の規定により、
ここに署名する。

令和6年3月2日

産業環境常任委員会委員長 小鍛治 義広